—Foreword—

薬剤師を真の“ゲートキーパー”とするために ～薬剤師が潜在的な精神科疾患や過量投与、自殺をピックアップできるようになるためにはどうすることが必要か～

大澤 匡弘,^{*,a} 川村 和美^{b,†}

Pharmacist as a Real “Gatekeeper” for the Prevention of Suicide, Overdosage and Depression: What Should We Need?

Masahiro Ohsawa^{*,a} and Kazumi Kawamura^{b,†}

^aLaboratory of CNS Pharmacology, Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Nagoya City University;
3-1 Tanabe-dori, Mizuho-ku, Nagoya 467-8603, Japan; and ^bSugi Medical Co., Ltd.;
2-6-1 Kaji-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 101-0044, Japan.

現在の日本では、自殺者が年間3万人の大台から減ることがない。近年の自殺者の傾向は、若年者のみならず中高年者にも広くみられることが挙げられる。これは、社会構造の変化や長引く不況などにより、日本人の多くが多くのストレスを抱え、精神的な失調をきたしていることが主要な原因であると言われている。この自殺者を減らすため、2011年秋、厚生労働省の自殺・うつ病等対策プロジェクトチームが結成された。このプロジェクトチームから提出された『過量服薬への取組』の「解決に向けて実施する取組」に“薬剤師の活用”が挙げられた。この取組には「薬剤師が過量服薬のリスクの高い患者のゲートキーパー」と位置づけられている。以来、薬剤師向けのゲートキーパー研修会が各地で開催され始めており、全国の薬剤師が“ゲートキーパー”として幅広く活躍するための知識や方法の充実と提供が強く望まれるようになった。

自殺の背景には、様々な要因が存在するが、その中でもうつ病や薬物依存といった精神疾患がある。薬剤師は、病気の認識がない人や薬物の乱用が疑われる人、処方薬依存に陥っている人など、問題を抱えるであろう多くの人びとと接することができる立

場にある。つまり、精神疾患や薬物依存などの正しい知識を得ることで、問題があると思われる地域住民を医師へとつなげることが可能となり、病態の悪化や自殺など深刻な問題に至る前に患者を救うことができるかもしれない。主な自殺の原因が精神疾患や薬物乱用にあるとすれば、薬剤師のこのようなスキルを上げることにより、自殺のゲートキーパーとしての役割を果たすことが可能になると言える。

本シンポジウムでは、薬剤師が増加を続ける精神疾患を原因とする自殺の歯止めとなるゲートキーパーとなるためには、どのような知識や技能が必要であるかについて、精神疾患や薬物依存の領域において第一線でご活躍されている先生方にお集まり頂き、議論を行った。『過量服薬への取組』をご提案された国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所の松本俊彦先生からは、わが国の自殺の現状や自殺の背景知識と、自殺予防者講習会を牽引されているお立場から薬剤師が習得しなくてはならない知識や技能、そして薬剤師活躍の可能性についてお話を頂いた。続いて、同センター所属の薬物依存の疫学研究を専門とする嶋根卓也先生からは、薬物依存の現状と医薬品の乱用、そして薬剤師のお立場から薬剤師が取り組めることなどについて具体的にお話を頂いた。また、米国内科学会総会で2002年より行われているPIPC (Psychiatry in Primary Care: 内科医が内科診療の現場における精神科疾患の診かたができるようになるための教育訓練システム) と呼ばれるプライマリ・ケア医を対象に精神疾患を診断する方法を日本に導入した井出広幸先生からは、プ

^a名古屋市立大学大学院薬学研究科中枢神経機能薬理学分野 (〒467-8603 名古屋市瑞穂区田辺通3-1), ^bスギメディカル株式会社教育事業部 (〒101-0044 東京都千代田区鍛冶町2-6-1)

現所属: [†]シップヘルスケアファーマシー東日本株式会社教育研修部 (〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-29-7)

^{*}e-mail: ohsawa@phar.nagoya-cu.ac.jp

日本薬学会第132年会シンポジウムS37序文

ライマリ・ケア医として薬剤師に望む技能や医師との関係性の構築などについてお話頂いた。最後に、現場の薬剤師教育に取り組んでおられる川村和美先生からは、自殺のゲートキーパーとしての薬剤師育成に係わってきたご経験から、薬剤師に対する教育や人文社会科学的視点から精神疾患並びに薬物依存症の患者を見極めるための方法論などについてお話を頂いた。

本誌上シンポジウムでは、井出先生を除くお三方

の先生から、シンポジウムでお話頂いた内容に新しい内容を加えて頂き、ご執筆を頂いた。本誌上シンポジウムからでも、薬剤師がゲートキーパーとなるために必要なエッセンスが網羅できるようなすばらしい内容になっている。今後、本シンポジウムのテーマである薬剤師が自殺のゲートキーパーとして活躍し、日本国国民の恒久の福祉の向上のために活躍することを期待している。